

令和3年度 第2回 総合教育会議 会議録

開催日時	令和3年11月16日(火) 午後1時30分～				
開催場所	本庁舎 602・603会議室				
会議出席状況	市長	津久井 富雄	出席		
	教育長	植竹 福二	出席		
	教育委員	深澤 道昭	出席	川上 聖子	出席
		小林 朋子	出席	森 泉	出席
		渡邊 英憲	出席		
	事務局	教育部長	大森 忠夫	教育総務課長	高野 浩行
		学校教育課長	明澤 伸宏	教育情報企画監	尾畑 宏
		学校教育課	矢口 晃之 藤田 知史 馬籠 清貴	教育総務課 (事務局)	伊東 佳子 須藤 奨
	次 第				
1	開 会			午後1時30分～	
2	あいさつ			市 長	
3	議 事				
	(1) スクールソーシャルワーク (ワーカー) の現状と課題				
	(2) GIGAスクール 中間報告				
4	そ の 他				
5	閉 会			午後3時00分	
6	会議要旨			次のとおり	



令和3年度 第2回 大田原市総合教育会議 要旨

令和3年11月16日（火）

開会 （午後1時30分～）

○教育総務課長 ただいまから、令和3年度第2回大田原市総合教育会議を開会いたします。

初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。

○市 長 （市長 あいさつ）

令和3年度第2回大田原市総合教育会議にご参加いただき、また、日頃から本市教育行政全般にわたりご指導いただきまして心から感謝申し上げます。

教育長から大田原市の小中学校の学力が非常に高い水準にあるとのこと報告をいただきまして大変うれしく思っております。

本日は尾畑情報企画監からGIGAスクールの取組みの成果についての報告をいただきますが、こちらにつきましても円滑に、高い水準を維持しつつ、成長しているということで伺っております。これからもICT社会の中で活躍できる子どもたちが大田原から輩出されるような教育環境を一つの柱として進めていかなければならないと思っております。

また、ICT社会とはいいますが、一方で人と人の心をつなぐ、絆を持つような教育環境も必要かと思えます。それらも含めて多岐にわたりご指導いただければと思えます。

雑ぱくではございますが、ごあいさつに代えさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○教育総務課長 それでは、次第の3 議題に入ります。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。

○市 長 円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の議題は、次第3に記載のとおり2件です。

まず、事務局が説明をした後、協議をお願いしたいと思います。

（1）スクールソーシャルワーカー（ワーカー）の現状と課題について、事務局の説明をお願いいたします。

○学校教育課  
指導主事  
矢口晃之

○スクールソーシャルワーカーの概要説明

- ・教育上の課題
- ・スクールソーシャルワーカーとは

- ・スクールカウンセラーとの違い
- ・大田原市教育支援センターについて
- ・大田原市のスクールソーシャルワーカー配置状況

○学校教育課  
主任社会福祉士  
馬籠清貴

- 教育政策とスクールソーシャルワーク
- スクールソーシャルワーカーの専門的視点
  - ・エコロジカル視点
  - ・ストレングス視点
  - ・子どもの権利
- 大田原市の教育相談に関する現状
- 大田原市の教育相談に関する課題
  - ・児童生徒の不登校について
  - ・発達障害（特別支援）に関わる相談について

○市長

説明が終わりましたので、協議に入ります。ただいまの説明に対しましてご意見、ご感想などがございましたらお願いいたします。

○小林委員

大田原市が、個々の子どもに適した安心できる環境を整えられる状況にあるということが素晴らしいと思います。

○森委員

発達障害を持った方々の就職支援の一環として農福連携の取組みを行っていますが、子どもたちのために何かできるのではないかなと思いました。

○渡邊委員

先ほどの説明にあったオープンスペース「ひまわりる一む」のように、不登校の子どもが過ごすことのできる環境があることが大切だと思います。一つの選択肢として、小規模校への転校というものもあるのかなと思います。

○川上委員

福祉の仕事をしていると、その子にとっての居場所、幸せな環境があることが成長するうえで大切だと感じます。

発達障害の認定の有無にかかわらず、誰であれそうですが、必ずいいところも悪いところもあります。そういった児童生徒の特長を学校の先生や関係機関が把握して、良いところを誉めるようなことができるようになれば成長していくのかなと思います。

みんな同じというのが教育ではなく、それぞれが活かされ人間として成長させるのが教育だと思います。自分の居場所、自分の良さを認めてくれるところで生きる意味を見出していくのだと思います。

○深澤委員

1年間で大変な件数の相談を受けているということで、1件1件の相談も長期化していくと思いますがどのように対応しているのか、少しお話いただければ。

○学校教育課  
主任社会福祉士  
馬籠清貴

先ほど報告いたしました件数については延べ数になりますが、それでも多くの相談が寄せられております。

相談によって専門性が異なりますので、それぞれの相談にあった専門職が相談にあたるということもありますが、教育支援センターではチームで支援を行っております。

週に1回会議を開いており、それぞれのお子さんへの支援方式を検討し、またそれぞれの担当が相談業務にあたります。

その相談についても基本的にタッグを組んで相談にあたります。一人は保護者と面談し、一人はお子さんに関わりを持ちます。その情報をまた所内会議で共有し、全体としてどのように業務を進めていくかを決定します。なるべく一人で抱えこまないようにしております。

○深澤委員

チームワークで進めていくのは大変なこともあるかと思いますが、これからの活躍にも期待したいと思います。

○教育長

大田原市では須賀川小、両郷中央小などの小規模特認校がありまして、ぜひ多くのお子さんに通っていただきたいと思っています。

実際に他の小学校区から通ってくれるようになると、先生たちの意欲にも良い影響を与えます。ただ、小規模特認校に通いたいが、周辺に住める家がないという話も聞いております。

馬籠先生にはさらに積極的に動いていただいて、専門家の視点から家庭教育を進めていただきたいと思っております。

○市長

委員の皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

スクールソーシャルワーカーの皆様には、誰一人として落ちこぼれることのない教育環境を作っていくうえで重要な部分を担っていただいております。委員、教育長からもありまして、今後も一人一人のお子さんの居場所、生きがいを持てる環境をまず教育現場につくり、ご家庭とつないでいく中で家庭教育まで行えるような積極性を持って取り組んでいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○教育情報企画監  
尾畑 宏

【GIGAスクール構想推進状況報告】

① ICT活用の現状と今後の方向性

- ・全国学力・学習状況調査結果（5月実施）
- ・市内ICT活用に関する調査（11月実施）
- ・今後の方向性

②事例

- ・持ち帰りによるリモート学習の練習（須賀川小）
- ・最近の取り組み（川西小、両郷中央小、黒羽小）

○市 長                    説明が終わりましたので、ただいまの説明に対しましてそれぞれご意見、ご感想をお願いいたします。

○教育長                    持ち帰りの際のいたずらが心配だとありましたが、他市の例で、家庭で使用した分の通信費を支払うために補正予算を組んだと聞いております。大田原市ではそのような心配はしなくてもよいですか。

○学校教育課  
指導主事  
藤田知史                    はい。大田原市では自由にインターネット（通信費の発生する携帯電話網）に接続することはできません。

○教育長                    セキュリティ対策も万全にお願いします。  
尾畑教育情報企画監には、これらの取組みを I C T 推進校以外にも広めてほしいです。

○深澤委員                    リモート学習について、湯津上地区の規模の小さい3小学校で実施するには問題ないかと思いますが、規模の大きい学校では回線の容量不足になってしまうのではないかと危惧しております。

○市 長                    限られた容量の中で効率的な運用方法を研究しなければなりません。  
それから、回線もそうでしたが、端末の耐用年数は5年くらいでしたか。頻繁に使用している学校では2年くらいで故障し始める恐れがあるとのことでしたが、限られた予算の中で進めていかなければなりませんので、回線と機器がパンクせず、それでいて成果が上がる運用方法を考えでいただきたい。

○川上委員                    私も機器が苦手なタイプですが、やらされているうちにできるようになってきました。学校でも苦手な先生はいるかと思いますが、毎週の職員会議でタブレットを使って実施しているうちに慣れてくると思いますので、苦手な先生へのフォローをしながら運用していくと良いのかなと思います。  
それから、リモート学習について、一つの画面に児童全員が映っていましたが、子どもたちにとって、自分が見られているという事がとてもよい刺激になって、一生懸命に取り組むのではないかなと感じました。

○渡邊委員                    川西・黒羽・須賀川小学校を尾畑教育情報企画監と一緒に見てきましたが、とても上手く授業ができていたと思います。  
先生方とも話をしたのですが、各校の同じ学年の先生たちで横の連携をとって I C T についての相談をしているとのことで、小中一貫の流れから効果的な I C T の取組みが行えているのではないかと思います。

始まってまだ半年ですが、小規模校ではかなり早いペースで進んでいて、いつもの授業で使うだけでなく、状況に応じた効率的な使い方ができていたと思います。

尾畑尾畑教育情報企画監には頻繁に学校に顔を出していただいている、現場の先生と深い話をされている様子を見ても、尾畑教育情報企画監の活躍があつてこそその現状だと思いますので、引き続き浸透するまで頑張っていたいただければと思います。

○森委員

想像以上に早く浸透してきているなと感じています。また、渡邊委員がおっしゃったように、大田原市で以前から取り組んできた小中一貫と結びついて、特に小規模校では有利に働きそうで、先見の明を持って良い取り組みができていたのだなと感じています。

○小林委員

両郷中央小学校に見学に行って、学習発表会をみせていただきました。違う教室にいる一年生と二年生が、機器を使って一つの学習発表に取り組んでいるの見て、びっくりしました。

小規模校だからこそ、これほど浸透が早かったのかなと感じたところではありまして、人数の多い学校でも同じようになっていくとよいなと思います。

○市 長

各委員から積極的なご意見いただきありがとうございます。

これを定着、継続させていく仕組みを作り上げていく時期なのかなと思います。

また、しばらくは限られたキャパシティの中で教育効果をあげていくことに注力していただきたい。

わずか半年の間にこれほどの進展を遂げたというのは、尾畑教育情報企画監、藤田指導主事、教育長の英断、チームワークの賜物と感じています。ここで気を緩めず、継続できるよう大田原のICT教育の仕組みを作り上げていただけるとありがたいと思います。

○市 長

GIGAスクールについて、ほかにご意見等ございますか。

ないようですので、以上で議題に関する協議を終了します。

滞りなく議事を進行することができましたことに感謝申し上げます。ここからの進行は事務局にお願いします。

○教育総務課長

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

次に次第の4 その他 に移りますが、皆様から何かございますか。

特に何もないようですので、以上で、令和3年度第2回総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございます。

閉会 (午後3時00分)